

家庭教育支援チームとは・・・

身近な地域で、子育てや家庭教育に関する相談に乗ったり、親子で参加する様々な取組や講座などの学習機会、地域の情報などを提供したりします。ときには、学校や地域、教育委員会などの行政機関や福祉関係機関と連携しながら、子育てや家庭教育をサポートします。

家庭教育支援チームのメンバー

(地域の実情に合わせて構成、特にきまりはない)



子育て経験者、家庭教育支援員、PTA、教員OB、民生委員、児童委員、保健師、臨床心理士など地域の人たちが主です。

家庭教育支援チームの活動内容

地域の実態、課題に応じた活動を検討、企画・運営していく。

①保護者への学びの場の提供



- ・家庭教育学級・家庭教育支援員等スキルアップ
- ・研修や家庭教育（子育て支援）講演会の実施
- ・親子参加事業の実施

②地域の居場所づくり



- ・学校や公民館等を拠点とした親子参加事業の実施
- ・親子（子供）広場などの開設
- ・家庭教育（子育て）相談窓口の設置

③訪問型家庭教育支援



- ・行政各部署、学校等との連携や支援チームでの体制
- ・整備を行い、チームでよく検討する。
- ・学びの場や相談に足を運べない保護者の支援

家庭教育支援チームを設置するあたり、①②③のいずれかの活動を継続的に行っていれば、構成メンバーも含め、特に決まりはありません（ただし、営利を主たる目的とした活動、特定の宗教色彩の強い活動ではないこと）。

千葉県内の家庭教育支援チームについて

平成 29 年度 4 市町 4 チーム (野田市・芝山町・睦沢町・鋸南町)

平成 30 年度 6 市町村 6 チーム (野田市・芝山町・睦沢町・鋸南町・栄町・長生村)

令和 元年度 7 市町村 7 チーム (野田市・芝山町・睦沢町・鋸南町・栄町・長生村・富津市)



1, 主な取組

※ 6 市町村のヒアリング調査より

- ・子育て広場事業の実施。 ・家庭教育学級の実施。
- ・家庭教育講演会の実施。 ・家庭教育相談窓口を設置。
- ・家庭教育だよりを毎月発行し、情報提供を進めている。
- ・家庭教育支援チーム (各関係課など) で連携をとるための会議の実施。
- ・相談については、学校・家庭教育アドバイザーを中心に対応し、必要に応じて関係課、民生委員、児童委員、社会教育委員を交えたケース会議を行い、今後の対応について検討している。場合によっては会議のメンバーで家庭訪問も行っている。

2, 主な成果

- ・家庭教育支援チームを設置することで、子供を持つ親同士、地域の人たちとの交流が盛んになり、良い効果が出ている。
- ・子供を持つ親や新しくその地域に来られた方の集まる場所となり、そのような人たちの孤立感の解消につながっている。
- ・子育てに悩み、困っていた家庭への支援ができ、問題 (子育て鬱、虐待など) の未然防止につながった。
- ・地域の人たちが安心して子育てができる環境ができつつある。

3, 課題

- ・市町村によって取組の差が見られた。
- ・家庭教育学級や講座の情報が子育てに悩む親、孤立しがちな親等、困難を抱える親に対し、個々に伝わる方法を検討する必要がある。
- ・家庭教育学級や講座を行うにあたり、事前アンケートを実施し、ニーズに合った内容を取り入れていく必要がある。
- ・家庭教育学級や講演に多くの方に参加してもらえるように内容や開催方法を工夫する必要がある。

今後の家庭教育支援チームについて

平成 29 年度から始まった「家庭教育支援チーム推進事業」は、各市町村の様々な取組を通して多くの成果をあげてきた。ただ、それぞれの市町村による取組の差が見られた。

また、近年、県内外に関わらずマスコミなどでは、重大な事件も数多く報道されている。

そこで、千葉県教育委員会では、設置開始から 3 年が経過する「家庭教育支援チーム」について、教育と福祉の連携の重要性を踏まえ、「千葉県における家庭教育支援チーム実践モデル」を作成した。本モデルは、福祉部門の担当課として、千葉県健康福祉部児童家庭課、子育て支援課、健康福祉指導課、教育部門の担当課として、教育振興部児童生徒課と協議を重ね作成したものである。

令和 2 年度から「千葉県における家庭教育支援チーム実践モデル (イメージ図)」を推奨し、より一層の家庭教育支援事業の充実と課題の解決を図っていく。